



# 優秀賞 (総合部門)

リフォーム前後の写真

タイトル ラブラドルイトリーパーと心地よくくらすためのリフォーム

タイプ 持家一戸建

講評

ペットの地位向上とともにペットに配慮したリフォームは増えたが、「犬のゾーン」を限定したしつけをしつつ家族とともに過ごせるようにした工夫が目を見せた。ペットとの共生は今後もリフォームの大きな課題だろう。



①リフォーム前のLD



②リフォーム前の廊下から和室、LDを見る



③サブリビング (with dog リビング)



④リビング・ダイニングルーム (可動間仕切りによりサブリビングと区切られる)



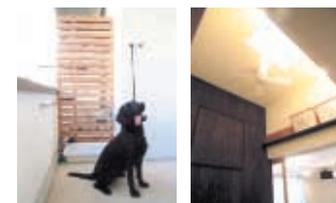
⑤サブリビング (with dog リビング) からリビング・ダイニングルームを見る



⑥サブリビング (with dog リビング) の犬小屋と、上部に設置したロフトを見る



⑥リビング・ダイニングルームの造りつけ収納家具 (犬のコードがけり事故を防止する)



⑦広くなった玄関ポーチとリードフック+足洗場



⑧犬窓 (飼い主を低い位置から見ると、戻の出来た犬は情緒が安定する。)

## リフォームの動機/設計・施工の工夫点/施主の感想 など

犬の室内飼いの歴史は浅く、飼い主、ビルダー双方が経験不足の場合トラブルが絶えません。日本人が室内で大型犬と心地よく暮らすためには「動物行動学」と「しつけの知識」に裏打ちされた新しいデザイン理論が必要です。このリフォームはそれを実践しています。具体的には活発な成長期にある犬の行動範囲を、犬の習性を考慮した動線計画の元に絞り、犬の世話をするのが容易で、しつけや楽しい訓練を行う場として、犬小屋を併設したサブリビング (With Dog リビング) を設けました。

施主の要望は、家の中が混乱しないように、当面は犬のゾーン特に配慮した住宅性能：採光、耐震、家屋内換気

を限定するが、家庭犬として側に居て欲しいという、矛盾した内容で「犬の専門家ならばできるはずだ!」という難しいものでした。全てご満足いただいておりますが解決法を4項目抜粋します。

- ・犬小屋：上部に子供用ロフト計画 (立体的利用と主従関係の形)
- ・犬窓：犬がリビングルームに居る人を見る窓 (情緒安定装置)
- ・玄関ポーチ：飼い主が先に玄関に入るために。(躰ルール対応)
- ・風の道：エアコン無しでも涼しさを確保。(犬の熱中症対策)

## データ

所在地	大阪府大阪市	構造/築後年数	在来木造/10年
該当工事面積	84.93 m <sup>2</sup> /総工事床面積 84.93 m <sup>2</sup>	該当部分工事費	1,700 万円/総工事費 1,700 万円
居住者構成	15歳以上65歳未満：2人/65歳以上：1人/15歳未満：2人/ペット：ラブラドルイトリーパー1匹		
設計者	(有)ファウナ・プラス・デザイン	担当者	廣瀬 慶二
施工者	(株)奥工務店	担当者	越田 正宏

## リフォーム前

S=1:150



## リフォーム後

